

〔古事談臣簡〕清少納言零落之後、若殿上人アマタ同車、渡彼宅前之間、宅體破壞シタルヲミテ、少納言無下ニコソ成ニケレト、車中ニ聞テ、本自棧敷ニ立タリケルガ、簾ヲ搔上ゲ、如鬼形之女法師、顔ヲ指出云々、駿馬之骨ヲ不買ヤアリシト云々、燕王好馬買骨事

〔今物語〕昔の周防内侍が家の、あさましながら建久の比まで、冷泉堀川の西と北とのすみ、に朽残りて有けるを行て見ければ、

我さへ軒の玄のぶ草と、柱にむかしの手にて書付たりしが有ける、いとあはれなりけり、是をみてあるうたよみ、かきつけ、る、

是やその昔のあと、おもふにも忍ぶ哀のたえぬ宿哉

〔台記〕久安三年九月十三日甲戌午一刻參上、依召參御前、召尼於御前賜米、先廳官於聖靈院、召計可賜之、尼則賜短冊後、列居御前、賜了取返短冊、次又召尼、給小袖賜米者不如先、賜小袖仰曰、無短冊、同人數度給物、又不可給之人參入、因之給短冊、是朕之謀也、此中無短冊之尼參入、被取返物了、法皇羽詔曰、朕在位時、有女房、名尾張、件人宇治入道相國、藤原忠實所被通也、今爲尼在此中、給物希有事也、余藤原賴長問曰、依道心乎、仰曰、依清貧也、件尼使左少辨光賴奏曰、吾是君之所知也、請自料之外、賜小袖一領、

廼者詣熊野爲令著、徒尼也、勅許之、良久而下宿所、

久壽元年仁平四年六月八日庚寅、今日余藤原賴長奉爲法皇、供養等身藥師、如來像一軀、座五寸同像、立素紙摺寫藥師經千卷、中次召佛師法印賢圓、賜馬一疋、一人乘之家貧無貯、以地田戶主爲造佛直、欲賜鴨院南町、而年來住彼地之侍女少納言曰、將以他地爲佛直、余許之、少納言獻地三戶主、以件地三戶主、鴨院南町一戶主、賜賢圓、以鴨院南町三戶主、賜少納言、

〔撰集抄九〕觀理大德事

むかし平の京に、男女すみけり、いたく思下べき品の人には、あらざりけるなんめり、藤山に有て